

まちのにほんごプラットフォーム 外国人・日本人クロストーク

【ともに暮らす・働く・育てる】を語る

===コミュニケーションの視点から===

実施報告 (2017年11月実施)

* * 「まちのにほんごプラットフォーム」とは * *

「日本語学習」や、生活の中での日本人・外国人の「コミュニケーション」に関わる様々な取組を紹介し、皆さんで意見交換・情報交換を行います。集った人たちの課題や視点の共有・ネットワーク作りの場です。

外国出身の人たちの増加・定住化が進み、学校や職場、生活の場など、日常の暮らして多文化を背景にした様々なコミュニケーションが行われています。そして、外国人のなかには活躍する人がいる一方で、言葉や文化の壁などで支援を必要とする人もいます。

「まちのにほんごプラットフォーム」は、多様な人々が活躍できる地域づくりにむけ、日本人、外国人、活動分野の異なる方々が行き交い、さらなる行動のきっかけを得られることを目指しています。

* * * * *

今回は、介護施設、学校、保育園など、すでに外国人と日本人の日常的な関わりを持っている皆さんをお招きし、それぞれの様子やコミュニケーションの工夫等の報告とともに、多様な人々が活躍できる地域づくりに向けたディスカッションを行いました。

【概要】 * * * * *

■**タイトル**：まちのにほんごプラットフォーム 外国人・日本人クロストーク

【ともに暮らす・働く・育てる】を語る～コミュニケーションの視点から～

■**日時**：2017年11月26日(日) 13:00～16:30

■**場所**：公益財団法人横浜市国際交流協会

■**参加者**：62人

■**基調講演・ファシリテーター**：岩田一成さん(聖心女子大学日本語日本文学科准教授)

■**発表者**：

介護

 高橋 好美さん (特別養護老人ホーム レジデンシャル常盤台 施設長)
メアス・ペンさん (特別養護老人ホーム レジデンシャル常盤台職員・カンボジア出身)

学校

 横溝 亮さん (横浜市立並木第一小学校 国際教室担当教諭)

保育園

 近藤 明美さん (横浜市立潮田保育園 園長)

親

 中原 範子さん (中国出身)
ファム・ミーリンさん (ベトナム出身)

■**内容**：

- 1 基調講演「多文化共生に向けて私たちが考えること」
- 2 パネル発表
- 3 パネルディスカッション
- 4 全体ディスカッション

* プログラム終了後、ミニ交流会を行いました。

■**主催**：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)



【内 容】 * * * * *

1. 基調講演「多文化共生に向けて私たちが考えること」

岩田一成先生（聖心女子大学日本語日本文学科准教授）

基調講演では、まず、国内の外国人増加の背景を、製造業・外国人配偶者・医療関係の例から理解しました。いずれも「(外国人が)勝手に来ているのではなく、(外国人の増加は)常に日本側の要因である」こと、また、大人の来日に伴って外国人児童生徒が増加しているという話がありました。

そして、多文化共生社会に向けて、日本人がコミュニケーションのとりかたを考える時期であり、誰にでも伝わりやすい「やさしい日本語」の発想について、まちでみかけるわかりにくい文章などをもとに、楽しくわかりやすく説明していただきました。



〈参加者の声（アンケートから）〉

- やさしい日本語で話しているつもりでも、きっとわかりにくい日本語になっているんだろうなーと再確認させられた。日本にはファジーな表現が多いこともわかった。
- やさしい ことばを がいこくじんとして ほんとに たすかります。きょうの はなしは がいこくじんの きもちを よく わかってくれる人で かんしゃと ありがとうの きもち いっぱいです。
- 自分が住んでいる町→横浜市に住んでいる外国人をよく知ること。本当に勉強になりました。

2. パネル発表

岩田先生の進行のもと、介護、学校、保育園の各施設で働く皆さん、また、外国人保護者の方など、6人の方から、現場の状況やご自身の経験等について発表がありました。

(1) 「介護」現場から

「ともに働く～チーム常盤台の仲間たち～」

高橋好美さん（特別養護老人ホームレジデンシャル常盤台施設長）

メアス ペンさん（特別養護老人ホームレジデンシャル常盤台職員・カンボジア出身）

レジデンシャル常盤台は、13人の外国人スタッフが働く施設です。高橋さんから、外国人スタッフが意欲的に働く様子や、日本人スタッフ・入居者とのコミュニケーションの取り方の工夫などの紹介がありました。また、カンボジア出身のペンさんは、当初は利用者との会話が心配だったが、ヘルパー資格をとるために頑張って勉強し、仕事に誇りをもって取り組んでいることや、カンボジアに介護施設を作る夢も語ってくれました。

常食	主食	副食	汁	水分
	米飯	普通	普通	F
氏名	sato kyoko			
	佐藤 京子 ① 様 女			
使用具	はし			
特記	魚禁(刺身はOK) 朝パン			

ソフト食	主食	副食	汁	水分
	全粥	ソフト	普通	F
氏名	yamada hanako			
	山田 花子 ② 様 女			
使用具	はし・スプーン			
特記	サバアレルギー			

【レジデンシャル常盤台で使用している食札】

- ① 名前の上にローマ字で読み方を表記する。
- ② 食事の形態は種類ごとに色分けし、字がわからなくても、色で区別できるようにしている。



左：ペンさん／右：高橋さん

(2) 「学校」現場から 「並木第一小外国人児童の現状と国際教室について」

横溝亮先生 (横浜市立並木第一小学校 国際教室担当)

市内小学校の国際教室担当を歴任している横溝先生は、「外国につながる児童生徒」に関わる立場から話をしてくださいました。横浜の外国籍・外国につながる児童生徒の状況や、国際教室の設置状況、国際教室での児童生徒の学びのこと。また、学校内で異文化理解が日常的にできることの良さや、学校外の機関との連携もとれていること。一方で、保護者とのつながりの弱さや、言語・学習・生活環境それぞれについて課題を感じるというお話もありました。



(3) 「保育」現場から 「多文化共生推進の保育園」

近藤明美さん (横浜市立潮田保育園園長)

潮田保育園は、外国にルーツのある家族が約 20%という、「多文化共生の保育園」です。

園の方針として、「外国籍の方にも分かりやすい保育」「多文化を取り入れた保育」「見て分かる保育」を心がけていることを、様々な実例とともに紹介してくださいました。「きらきらぼし」などの歌は、日本語だけでなく英語やポルトガル語、中国語でも歌うとのこと。さらに、鶴見区の公立保育園が行う「多文化共生推進プロジェクト事業」が行った、外国につながる児童に関するアンケート結果から、認可保育所の状況についての興味深い紹介がありました。



(4) 「親」の立場から

中原 範子さん (中国出身)

ファム・ミーリンさん (ベトナム出身)

お二人は留学生として来日し、今は横浜で、それぞれ2人の子育てをしています。幼稚園や学校での保護者としての経験を中心に、「PTAで困ったこと」「(学校や園からの)お知らせで困ったこと」「日本の学校制度のよいところ」などをインタビュー形式で話してもらいました。PTAでは係決めの方法に驚いたこと、日本の学校は、勉強だけでなくマナーも教えてくれるのがいいと感じていること、行事などの説明がなく困ることもあったが、周囲の人に聞くと助けてくれる人もいたことなど、エピソードを語ってくれました。



3. パネルディスカッション

それぞれの発表したのち、岩田先生の進行のもと、発表者によるパネルディスカッションを行いました。お互いのコミュニケーションについて、工夫していることや困ったと感じたことなどを話していただきました。工夫についていえば、学校と保護者のやりとりで個人面談など大事なときには通訳を手配したり、重要な配布物にはハンコでしるしをつける、また、介護施設では、名前をローマ字で書いたり食事のトレーに注意事項をマークで表示するなどが挙げられました。

困ったことでは、外国人の皆さんから、次のような話がありました。

- ・妊娠中に、医師に「入院しましょう」といわれた。安静にするためということが理解できず、大変なことになったとパニックになってしまった。
- ・日本人は「日本語が上手ですね」など、最初は過剰に褒める。最後に本音が出て、わかりにくい。
- ・日本語の発音が難しい。言っていることを理解してもらえなくて、字を書いて見せた。でも、言葉だけでなく、表情、しぐさ、身振りで伝わるのがわかった。



〈参加者の声（アンケートから）〉

- 苦労ある横浜での生活を、工夫とユーモアで楽しんでいるようです。そこまで行くまでに、相当苦労されていると思います。サポートの仕方を考えていきたいと思います。
- ネイティブの3人の方のお人柄が素晴らしく、コミュニケーションの工夫などのお話が大変参考になった。
- まわりに助けてくれる人がいること、ご本人に聞くスキル、誰かに頼るスキルがあることがとても大事だと感じました。
- それぞれの現場のお話が生で聞けたのでイメージが湧きましたし、良くわかりました。

4. 全体ディスカッション

引き続き、岩田先生の進行のもと、参加者からの質問に対して、発表者がコメントする形でディスカッションを行いました。次のような質問がありました。

- ・「(外国人として) 日本人保護者との交流で大変に思っていること」
- ・「言葉の面の他に、大変なこと」
- ・「入学する外国籍の子どもに対し、学校が注意していること」
- ・「外国の人を職場に受け入れるにあたって、配慮していること」

多様な現場の、また、日本人・外国人それぞれの立場からの声を聞く中で、日本人・外国人のコミュニケーションにあたっては、言葉や文化的の違いに伴う大変さはあるものの、結局は、人と人の信頼関係をつくり、お互いを尊重する気持ちが何より大切であること、それが、多様な人々が「ともに暮らす・働く・育てる」地域づくりにつながっていくことを確認できた時間となりました。外国人参加者が、発表内容にとっても共感していたのが印象的でした。



終了後のミニ交流会（自由参加）

今日の講座のこと、また、自分の活動などについて、発表者・参加者が気軽に話し合いました。



〈全体を通じての、参加者の声（アンケートから）〉

- 外国人の視点、接している人の視点の両方からお話を聞くことができ、重要な点が見えた。
- 分野別に、苦労していることや工夫していることなどの話が聞けてよかった。
- “やさしい日本語”にハッとした。努力不足であると反省しました。
- 職場について最近、外国籍の方が入社され、文化の違い、言語の壁をあらゆる場面で感じていましたが、外国の方が辛さを感じている面が多いこともわかりましたし、それに対する対応はとても勉強になりました。
- がいこくじんのことをよくかんがえてくれる人がいっぱいあえてよかった。こころがつよくなります。